

大津勇人さん（右）が犬のトリミングをする様子を見学する生徒ら



社会人が講師に 佐伯市の蒲江翔南中

佐伯市蒲江翔南中学校（染矢博史校長、169人）は13日、同校で、さまざまな職種の社会人が講師を務める「職業講話」を開いた。市内在住の介護福祉士や漫画家、ヒラメ養殖業、弁護士、パティシエなど10職種・11人が来校し、全校生徒は興味のある職種を二つ選択してそれぞれ話を聞いた。

そのうちトリマーの大津勇人さん（25）は「ドッグサロン102」店長。「『動物の飼育員も目指したが、犬と飼い主に同時に触れ合えるトリマーの仕事を選んだ』と説明。トリミングを実演しながら日頃の仕事ぶりを紹介した。生徒も説明をじっと聞きながら作業を見ていた。

「働くとは？」考え方よ

若年労働者が講師となつて仕事の話をする「ヤングキャリアアドバイザー講演会」が11日、大分市内の中学校で始まった。市が2004年度からスターさせた事業。本年度は事業所に勤める20代の47人が23中学校で講演する。

城東中学校であった第1回は、2年生（247人）を対象に、保育士、新聞記者、企業や福祉施設の営業・事務職などの7人が各クラスに分かれて話した。ヤノメガネの安東佳佑さんは、生徒に眼鏡や

レンズに触れてもらいながら仕事内容を紹介。接客業を選んだきっかけや仕事への思いを話し、「ルールを守るなど学校生活の基本は社会に出ても不可欠。今のうちからしっかり身に付けて」とアドバイスした。



綿貫由希さん（13）＝顔写真＝は「仕事の大変さ、楽しさなどが分かった。将来、やりがいを持つて仕事ができるようになりたい」と話していた。

大分市内の中学校 講演会スタート



生徒に眼鏡を掛けながら仕事内容を紹介する安東佳佑さん（中央奥）

（2013年6月15日朝刊8、12面）

大分市内の中学校で「ヤングキャリアアドバイザーワークシート講演会」が始まり、佐伯市の蒲江翔南中学校では「職業講話」が開かれました。

若手労働者が仕事アドバイス

①二つの取り組みの目的は何でしょう。

②あなたなら、どのような職業の人の話を聞きたいですか。

③自分の将来の夢や職業を発表してみよう。